

## 地図作成にあたって

本学年では、社会科「わたしたちの県」の単元で立体地図を作成し、地形の特色について学習している。この地図の学習は、総合の時間（郷土の歴史）にも効果的に生かすことができる。

本実践では、郷土の地形の変遷に焦点をあてた。右の頁に示した地図は、「干拓の歴史」をテーマに追究した子どもたちの作品である。

## 作品について

子どもたちは学校付近の干拓堤防跡や記念碑などを目にしており、学区が干拓地であることを知っている子どもも多い。しかし、干拓前はどの辺までが海で、町全体がどんな地形だったのか、また、人々がどんな生活をしていたのかといったことについての理解は難しい。

「昔の大浜町の土地はどうなっていたのだろうか」という疑問をもとに、古地図や郷土資料を参照しながら、土地のようすを調べていった。子どもたちは、「大浜町は、昔は完全に海に囲まれていたんだね」「僕の家がある所は元々海だったなんて」と土地の大きな変化に驚いていた。また、現在の地図と比較し、「玉名市の5m以下の土地はほとんど干拓でできた土地だ」「干拓地がこんなに広いとは思わなかった」「干拓は、江戸時代から昭和にかけてずっと続けられてきたんだね」と地形の歴史的な変化についても気づいていった。

### 「児童の発見・わかったこと」

- 干拓は、1589年、加藤清正によって始まった。
- 玉名市の有明海沿岸の平地は干拓によって人工的につくられた土地である。
- 唐人川は、干拓により河口のようすが大きく変わり、名前も菊池川と変わった。

- 昔、大浜町の周辺は、浅い海で囲まれ、隣の横島町は島になっていた。
- 菊池川の川岸の両側には、山があり、土地の最も低い所を流れている。
- 干拓によって農地が増えた。干拓の農地は栄養分が多く、にんじんや玉ねぎなどの野菜がよくできる。最近では塩トマトが注目されている。
- 干拓によって川の両側に堤防を、海岸には堰を築き洪水や潮害の被害がなくなった。
- 玉名市の北東にある小岱山は、昔からほぼ形を変えずに残っている山で、玉名市のシンボリックな山である。

## 指導の成果

完成した作品からわかったことを整理する中で、豊かなくらしを願い、長い年月をかけて、土地を拓いてきた地域の人々の努力や願いについて考えさせることができた。また、大浜町民の生活の中心が漁業から農業へと変化したことや、町の沖部の道や水路が直線になり、農機が搬入しやすく農作業がしやすくなったことなど、社会科の学習の「先人のはたらき」「まちの人々のくらし」などの単元にも関連づけることができた。

## 実践を終えて

今回の地図作成は、同地域で、歴史的に海岸地形が大きく変貌していくようすを視覚的・感覚的にとらえる学習として、効果的であったといえる。「玉名市の土地は、昔はいったいどんなところだったのだろうか」という課題に対し、調査や地図作りを通し、楽しく学習に取り組むことができた。

地図学習は、単なる知識の確立としての学習ではなく、操作や製作等の体験的な学習を通して行うことで、子どもたちの興味・関心を高めるとともに、理解の定着に加え、はるかに楽しく学習で

きると考える。

今後もこうした地図教材のもつ本来のよさを生かした地図学習を行っていききたい。

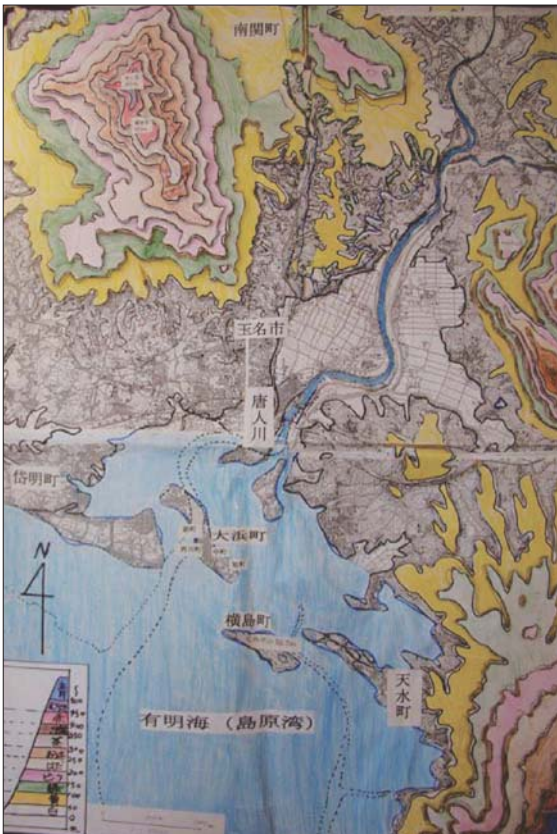
## 子どもの作品と絵地図の新旧比較

### 菊池川の河川工事と干拓の始まり

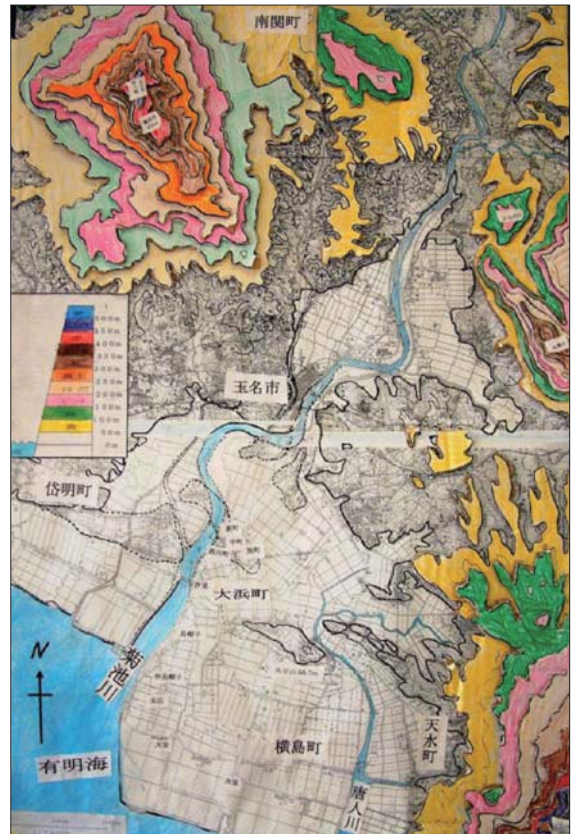
天正17年（1589）の正月、加藤清正は菊池川の掘り替えと干拓の工事を始めて約17年の歳月をかけて完成させた。海岸に堰を築いて、潮害を防ぎ、川の両側には堤防を築いて洪水を防ぎ、灌漑用の堰を設けた。

干潟も田畑に変わり、大浜や横島など8村が生まれた。当時、開かれた田畑は、870町余りであった。

その後、明治、大正、昭和と段階的に干拓工事が進められ、昭和42年（1967）で干拓が終了する。



〔干拓前の菊池川河口（1069年頃）〕



〔干拓後の菊池川河口（現在）〕